

情報ネット後志

NO4 2010年8月

発行：後志農業改良普及センター

平成22年度の活動体制と活動方針
重点普及活動の紹介
広域主査の活動の紹介



H22年度の後志農業改良普及センター活動体制

後志は、1910年3月小樽支庁、岩内支庁、寿都支庁と室蘭支庁虻田郡の真狩村と狩太村を統合して100年目を迎えました。2010年4月旧支庁も総合振興局と名称を改称して新たなスタートをきっています。

北海道農業の縮図とまで言われる多種多様な形態を持つ後志農業100年の変遷も、近年は農畜産物価格の低迷や担い手の減少・高齢化が進展する中で、今後は農村地域の集落機能が低下して農業経営の継続も困難となることが懸念されています。

こうした中、農業改良普及センターの活動も、後志農業の持続的発展を図るために、高度で専門的な技術支援を地域に密着して行う普及活動がこれまでも増して求められています。

農業・農村の活力を維持・向上させるためには、次代を担う多様な担い手の確保・育成と施設・機械の共同利用、作業受委託の推進、集落営農や法人化等の取り組みが必要となっており、より安全・安心な農産物を求める消費者ニーズへの対応や地域段階で行われている地産地消の取り組み等との連携による農村地域の活性化なども重要となっています。また、今後は農業内での自助努力はもとより、地域の農畜産物を活用した加工・流通など、農業以外の産業とも連携した地域経済・社会全体の維持、発展も必要となっていることから、100年の節目にあたって平成22年度から、地域重視と現場主義の普及活動を踏襲しながら、このような地域農業の維持・活性化を支援するために、本所広域班の担当項目を見直し、人材育成、生産合理化・組織化、情報・クリーン・有機、高付加価値化を強化して以下の活動体制といたしました。職員一同、精進してまいりますので今後ともよろしく願います。

所長 河合	本所次長 金澤	調整係長 島倉	菊地 戸川 高嶋	俱知安町 京極町	
		地域第1係長 二俣	新井 松田 半澤	二セコ町 蘭越町	
		地域第2係長 星	須佐 草野	共和町 岩内町 泊村 神恵内村	
		地域第3係長 伊藤	入澤 花岡 西川 田島 小形	真狩村 留寿都村 喜茂別町	
	南後志支所長 北島	地域係長 竹井	原田 若杉	黒松内町 島牧村 寿都町	
		北後志支所長 佐々木	支所次長 山田	地域第1係長 加賀谷	戸川 佐々木 古舘
	地域第2係長 櫻村			佐久間 高橋 酒井	積丹町 古平町 赤井川村 小樽市
	主任普及指導員 黒川 主任普及指導員 中野	人材育成主査 中島	花き主査 入澤	畜産主査 原田	後志管内
		高付加価値化主査 上西	生産合理化・組織化主査 武井		
		情報・クリーン・有機農業主査 会川	果樹主査 戸川		

H22年度の活動方針とこれまでの取り組み

農業改良普及センターは人・地域・食に代表される地域資源や環境を活かした地域農業振興を目指して、食のブランド化、自然や環境の保全等を視野に入れた農業と観光の連携、都市と農村の交流など、食と観光を柱とする地域活性化に取り組んでいます。

また、地域農業ビジョンに基づく目標農業所得の確保を目指して、地域農業の生産構造の再編とゆとりある農業経営の確立に向けた提案型普及活動及び普及成果の波及活動を展開しています。

平成22年度からは新たな地域で新たな課題解決に向けた活動を始めました。これまでの取り組みと今後の展望についてお知らせします。

皆様には、今後とも地域の普及センターを気軽に活用していただくようお願い申し上げます。

1 重点対象地域が変わりました

本年から5年間の重点普及活動地域を、俱知安町から京極町に変更しました。京極町は、馬鈴しょを中心とした畑作物とにんじん等の野菜を組み合わせた畑野菜経営が特徴です。本年からの重点普及活動地域は、京極町の経営形態を代表する地域です。

2 活動のねらい

この様な中で課題になるのが、馬鈴しょ、にんじんの線虫被害をいかに抑えるかです。従来から最も確実な方法として薬剤による対策を進めてきましたが、経済的なこと、環境のこと等を考え、新たな対策の提案と推進を目指しています。

3 今年の取り組みは

初年目の今年は、にんじん・馬鈴しょ畑のキタネグサ

レセンチュウ密度を知ってもらうために、融雪直後からほ場毎に土壌を採取し頭数調査を行いました。これにより、線虫密度の低いにんじんほ場の被害程度確認試験を行っています。秋には、もう一度、ほ場毎の線虫密度を調べ、線虫密度の変化を確認し今後の対策に活かします。もう一つは、試験場が開発した病害虫の発生調査に基づく防除方法で畑作物の防除を行うことです。これにより農薬の使用回数を減らし、コスト低減や環境負荷を抑えることを目指しています。



< キタネグサレセンチュウ検診作業 >

蘭越町は、基幹作物の水稻と転作物の複合経営が主体ですが、美味しい蘭越米の低コスト生産と転作畑の収益向上が課題です。

そこで、重点地域の皆さんとともに、次のようなことに取り組んでいこうと計画しています。

1 稲の低タンパク米生産、低コスト化

新品種ゆめぴりかを中心に低タンパク米生産技術を実証してゆきます。また、土壌診断や病害虫発生予察に基づく低コスト施肥・防除を推進します。

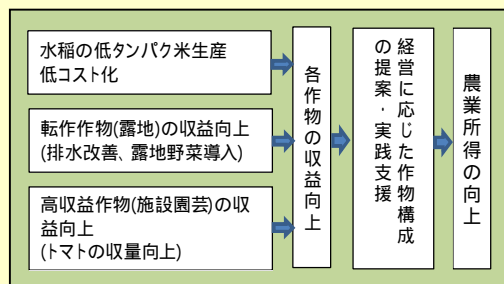
2 転作作物(露地)の収益向上

透排水性改善を進めながら大豆の収量向上と省力的な露地野菜(スイートコーン、南瓜、ブロッコリー)の導入を図り、大豆の連作回避と転作畑の収益向上を目指します。

3 高収益作物(施設園芸)の収益向上

トマトの10t取りを目指し、栽培技術や土壌改良を進めます。トマトの収益をさらに高めることで、水稻と並ぶ経営の柱へ成長させることを目指します。

最終的には、これら各作物の課題解決を進めながら、個々の経営に応じた作物構成を提案することで、地域の皆さんの所得向上に貢献することを目指しています。



< 重点普及活動計画の概要 >

共和町の農業は、果菜類を中心に水稻、畑作物を組み入れた複合経営となっており、21年度までの5年間の取り組みで、メロンの作型分散による安定生産、水稻の品種構成の改善による良食味米の安定生産等が進み、経営は安定化が図られるようになりました。

しかし、果菜類の管理作業の忙しさが目立つ状況であり、省力化技術の導入が今後の共和町農業には必要であると地域関係機関も同じ意識に立ち、新しい取り組みを展開します。

省力化技術として、重点地区を中心に水稻直播栽培のモデルほ場



< 水稻直播は種作業 >

を設置し、導入検討をスタートさせました。

また、地域資源の有効活用と土づくりをめざして、稲わら活用への取り組みもスタートしました。本年は昨年秋にハウス内にすき込んだ稲わらの実用性を検討しています。

他にもマダーボール(小玉すいか)の安定生産技術の実証検討等の活動を展開しています。5年後の目標として、水稻直播栽培の導入をベースに営農支援システムを構築し、「らいでんブランド」のさらなる確立による、ゆとりある複合経営の確立をめざし、活動を展開します。



< ハウス内稲わらすき込み >

ルスツ高原から「ゆとり」ある力強い農業の発信！【留寿都村】 担当：本所 地域第三係

留寿都村の農業は、畑作4品目＋露地野菜(だいこんなど)の複合経営が大半を占めています。また、一戸当たりの農業粗生産額は高く、安定した農業経営が営まれています。しかし、畑作物と露地野菜の労働競合が地域的な課題となっており、身体的・精神的な「ゆとり」が失われつつあります。

そこで、本所地域第三係では、「留寿都村向丘」をモデル地域とし、高い農業所得を維持した中で、「ゆとり」ある力強い農業経営を目指した活動を展開しています。

本年度は、「基幹作物の安定生産とコスト低減による所得確保」として、だいこんや馬鈴しょの安定生産とコスト低減、土づくりの実践などを支援しています。

また、「担い手経営管理能力向上による経営改善」として、若手後継者や女性農業者自らが経営に参画し、身体

的・精神的に「ゆとり」ある農業経営を目指した活動を支援しています。

今後、留寿都村向丘地域が、留寿都村農業の「モデル地域」となることを期待し、地域と関係機関が一体となった活動を実践します。



< 女性農業者のためのプチ講習会 >

美味しいぶどう、沢山のかぼちゃを皆様に【余市町】 担当：北支所 地域第一係

1 背景

余市町、仁木町のぶどうは重要な作物です。しかし、昨年の天候は露地ぶどうには厳しく、品質低下とともに消費者の嗜好変化も相まって、価格が低迷し再生産が難しいとの声が聞かれました。

2 活動のねらい

普及センターでは、余市町黒川地区の皆さんと会合を重ね、知恵を出し合った結果、技術改善の力点を面積が多い「露地ぶどう」と、堅調に生産が上がっている「かぼちゃ」にあて経営向上を目指していく計画がまとまりました。



3 取り組みの経過

今春の天候はすこぶる悪く果樹の生育遅れ、ぶどうの



芽吹きが悪い、かぼちゃ移植作業の遅れや強風、霜害など心配なことばかりでしたが、6月に入り天候も安定し作物もすくすく伸びてきています。

また、露地ぶどうの房作り、品質向上、かぼちゃの収量アップは生産者だけではなく関係機関も期待しています。

4 今後の展望

「着果管理によるぶどう単価の向上」と「栽培技術の改善によるかぼちゃの収量確保」をすることで「果樹＋野菜」経営の採算性確保を目標としています。



応援します！赤井川のうまいもん！【赤井川村】 担当：北支所 地域第二係

魅力ある作物づくりで生涯現役農業を推進！

1 背景

計画作成にむけて関係機関とともに、担い手の将来動向や農業振興への希望に関するアンケートを農家さんへ実施しました。その結果、村の課題を新規就農者・若い後継者の定着、遊休農地の解消、販路拡大の対策が必要、の3点に整理しました。

新規就農者が意欲的に営農しており、販路拡大への意識が高い赤井川村日ノ出地区を選定し、意見交換会を数回重ねました。「新たな特産物を作りたい」「少量多品目販売で営農年齢を延長したい」との要望があり、「まずは、実際に地域ぐるみで生産物を買ってみよう!」とまとまり



ました。

2 活動のねらい

今年度は村のイベント「味覚まつり」で直売に挑戦し、直売用農産物の栽培技術の向上、販売スキル習得による販売額の向上にむけて活動します。

3 取り組み経過

地域農業者の出店に対する意向調査、販売体制づくり、作付計画の作成支援、売れ筋農産物の実証ほ設置など、直売活動準備を推進しています。

4 今後の展望

直売活動が成功することで、地域特産物の発掘や少量多品目生産の実現につながり、地域が元気になることを目指します。



こつこつ積み上げ、めざせ理想の経営像!! 【黒松内町】 担当：南支所 地域係

酪農が中心の当地区では、乳価の引き下げが決まり、所得を確保するためには、生産コストの低減と生乳出荷量の増加が求められています。また、補完作物の食用馬鈴しょは、防除適期を逃しがちで散布回数の増加など、労力・経費がかかり課題となっています。

1 効率的な酪農の確立と所得確保

本年は粗飼料生産の低コスト化と低コスト飼養施設導入に向け取り組みを行います。

この春は、融雪の遅れや天候不順により作業が大幅に遅れました。現在は、普及セ



ンターと農業者が検討を進めてきた共同作業や施肥改善により、生育の遅れは取り戻しています。家畜の飼養管理では、農場の防疫対策中心の取り組みとなっています。

2 馬鈴しょの減農薬・低コスト化

発生予察の徹底と適期防除の推進を図り、農薬使用回数の削減を図ります。



<関係機関と試験展示圃の設置風景>

同時に疫病抵抗性品種の試験栽培を行っています。将来は粗飼料収穫調製期間の労働時間縮減を目指します。

新たな生産構造設立に向け、共同作業の実践からスタート！ 担当：広域主査(生産合理化・組織化)

担い手の確保、生産コストの低減、労働の省力化等の地域農業の課題に対応するため、同じ課題を共有する農業者が集い、新たな生産構造や協業経営体を設立する事例が増えてきました。普及センターでは、このような取り組みを支援する「生産合理化・組織化主査」が配置されました。

現在、ニセコ町内の酪農家6戸は地域酪農の持続性を高めるため、自給飼料の増産と低コスト化を目指したサイレージ用とうもろこし栽培の共同作業を開始しました。



<共同作業と反省会風>

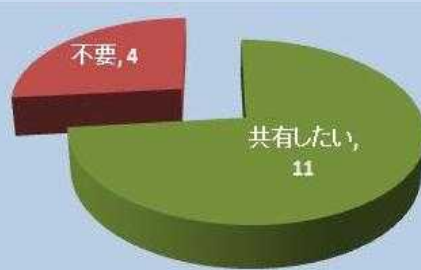


将来的にはTMRセンターの設立も検討中。地域酪農の核となる組織への発展を期待し普及センターも支援中です。

後志有機農業ネットワークの活動を支援 担当：広域主査(情報・クリーン・有機)

平成21年度に設立された後志有機農業ネットワークは研修会等を通じて会員相互の情報交換を行っています。

6月中旬に会員の皆さんから今年の活動に関して意見を伺ったところ、有機農業のPRについて、生産情報の共有について、研修の内容について建設的なご意見をいただきました。これらのご意見をもとに今年の研修会を企画していきます。



生産情報の共有に対する意見



特に、生産情報の共有については「会員がお互いの作付けの状況を知ることで、自分の扱っていない作物を栽培している会員を自分の客に紹介することができる。」と共有を望む声が多数ありました。今後は、生産情報の共有と販売面でのネットワーク化に向けて意見交換・集約をしていきたいと考えています。

後志農業改良普及センター本所

住所 虻田郡倶知安町旭 57-1
TEL 0136-22-1072
FAX 0136-22-4744
<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/fukyu/sbc/index.html>

南後志支所

住所 寿都郡黒松内町字黒松内 309
TEL 0136-72-3161
FAX 0136-72-3456
<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/fukyu/sbnan/index.htm>

北後志支所

住所 余市郡余市町朝日町 11 番地 1
TEL 0135-22-5135
FAX 0135-22-5987
<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/fukyu/sbk/index.html>